



福知山HANABI実行委員会（奥田友昭実行委員長）が主催する花火大会は2024年、13年8月の露店爆発事故から11年ぶりに開催され、今年で3回目。打ち上げ発数は昨年より2千発多い6千発となり、13年以前のドッコイセ福知山花火大会の規模に戻した。

昨年まで花火大会を後援してきた福知山市は、安全対策への関与を強めるため「共催」に切り替え、実行委とともに降雨や増水、強風時の中止判断の基準や自然災害など突発事象への対応を定めたマニュアルを作成したほか、当日は安全確認などのため110人の職員を動員した。

また、福知山城と市庁舎には無料の特別観覧席が設けられ、城の天守閣には1組4人、屋外の本丸エリアには48組91人、庁舎には高齢者や障

城などに特別席も

福知山HANABI

福知山の夏の夜空を彩る「福知山HANABI2026」が11日、音無瀬橋近くの由良川河川敷で行われ、

約3万人の見物客が訪れた。市が共催した今年は福知山城と市庁舎に特別観覧席が設けられ、来場者らが普段は見られない場所から花火を満喫した＝写真。

3万人が見物

害者など23組45人が訪れて花火を鑑賞。

天守閣から家族と花火を楽しんだ大学生の足立紗弥子さん（21）は「目の前に見える花火はとても奇麗だった。明智光秀になった気分での良い記念になった」と笑顔で話していた。